

## 第1回総合教育会議会議録

1. 日時：令和5年8月23日（水）

午前9時00分から午前11時40分まで

2. 場所：平戸市役所 市長室

3. 出席者

黒田市長、松永教育長、岡委員、田中委員、氏田委員、三輪委員

(1) 事務局

野口総務部長、村田総務課長

(2) 教育委員会事務局

嶋川教育次長、森理事兼学校教育課長、田中教育総務課長、赤木生涯学習課長

【議題説明者：森理事兼学校教育課長】

4. 協議事項

議題 平戸市における地域の素材を活かした教育の実践（地域学校協働活動）について

5. 議事の概要

(1) 平戸市における地域学校協働活動の事例と課題等の情報共有を図り、その在り方について協議した。

- ・平戸市の小中学校が取り組む地域学校協働活動の事例
- ・取組みの充実のためにどのようなことが考えられるか
- ・地域学校協働活動の在り方
- ・問題点、課題等

6. 会議経過

○開会

○総務部長

それでは、お揃いですので、ただ今から令和5年度の第1回平戸市総合教育会議を始めたいと思います。

先ず、市長よりご挨拶をいただきたいと思います。

○市長あいさつ

今日は、今年度の第1回の平戸市総合教育会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。

そもそも、この総合教育会議というのは、教育委員会と市長部局が同じテーマで議論を活発化させて情報共有して子どもの教育環境を守っていこうという理念でやっているものだと思っています。ついこの間は、部活動の地域移行というテーマで話をしたばかりだなと思いながら、もう5年度の第1回の会議ということですから、もう少し回数を増やしてもいい気がします。いずれにしても、学校をとりまく様々な環境をはじめ、子どもたちをとりまく色々な条

件も時代と共に変わりつつありますので、とりわけ私が県議会におりましたときもそうでしたけれども、学校というのは一つの組織体として完全無欠を目指していたものですから、学校がすべてを解決するという意思が見え隠れしていたんですね。ですから何か問題が起きて、外に漏らすな、警察には絶対言うな、みたいなところがあったんじゃないかなと。そのことが、いじめの傷の深さとかですね、問題の複雑化にもなったんじゃないかなという。平戸のことでなくて一般的な話ですけども。そういった経過や反省を含めて、色々なものをですね共有して検討して、機能を強化していきたいと思っています。今日もそういった意味で、本日の議題である地域学校協働活動について揚げておりますので、皆様の活発なご意見をいただきますようどうぞよろしくお願いいたします。

#### ○総務部長

つづきまして、教育長にご挨拶をお願いいたします。

#### ○教育長

おはようございます。地域学校協働活動というお題が出ております。協議に入っていくわけなんですけども、その前にこれまでの経緯の中で皆さんに知っていただきたい内容がありますので、簡単に説明をさせていただきたいと思います。市長が言われたように、昭和の時代の学校というのは、閉鎖的で、なんでも学校内部で解決しておりました。実際色々な問題が起きて漏らさない、私が現場にいたときもそうでした。ただ、対外的な警察事案になると、もう漏らさないわけにはいかない。これは、子どもであっても先生でもそうでした。ところが、平成に入りかけたころから、それではやっていけない状況がたくさん出てきました。子どもの非行問題だけじゃなく、学校に対するクレマーとか、モンスターペアレントとか言葉も流行りましたけれども、色々な問題が出てきて、学校だけでは解決できなという問題が実際に出てきました。どこでも出てきていました。その頃から、学校評議委員会とあって、地域の人に学校のことについて意見をいただくという組織ができました。その次に学校支援会とあって、PTAや地域の団体にお手伝いをさせていただく組織が出来上がって、地域のリーダーに集まっていたら学校支援会というのを開くようになりました。その後ですが、それでも上手くいかなくて、学校開放とあって、学校をオープンにしてくださいと、学校の中身も、教育活動の中身も全て。そういう中で、地域に根差した、という言葉ができてきました。学校というのは地域で、或るいは、地域の子どもたちは地域で面倒を見ようというふうになってきて、その中でコミュニティスクールができ、学校運営協議会というのができあがりました。学校の様子に対して意見をいうだけではなくて、学校の問題については一緒に決めましょうとか、学校の人事異動にも口出しできる、学校に言っても聞かないなら教育委員会にも言いに行くぞみたいなそんな流れでできましたが、今回の議題でもあります、地域学校協働活動は、文部科

学大臣の馳さんが提唱したものですけども、馳さんは提唱してすぐ変わられたものですので、そのままそれは残ってしままだに続いています。ただ学校としては、新しいものを作るのはいいのですが、古いものを削ってから作ってほしいと考える。というのも、メンバーはほとんど一緒なんです。どの会合も。そういういきさつを踏まえながら今日の話を進めていただければと思います。私も現場にいた人間として参考になる話もできますので、よろしく願います。

#### ○総務部長

それでは協議事項に移らせていただきます。協議事項につきましては、市長により進行をお願いいたします。

#### ○市長

それでは、教育委員会からの資料がありますのでこれに沿って説明をお願いいたします。

#### ○森理事

学校教育課森でございます。ただいま、大枠については教育長からご説明いただきましたが、詳しい時代の流れとか、それから全国的な取り組みとか、最後に本市での取り組み等を資料に沿って説明したいと思います。本日の会議で皆様の広いご意見や提案をいただければと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

さっそくですが、1ページ目をお開きください。この地域学校協働活動というのが提唱された経緯について簡単に説明いたします。近年、少子高齢化とか、情報化だとか、そういったことの中で子どもを取りまく環境が非常に大きく変化をしているというのはお耳に入っていることと思います。これに伴って学校の抱える課題というのも非常に複雑化しております。また、地域における教育力の低下とか家庭の孤立化とか貧困とかですね、そういった様々な問題が生じてきていました。そこでですね、平成27年、中央教育審議会をはじめ、翌28年、文科省から次世代の学校地域創生プラン、馳大臣の頃ですかね。中央教育審議会の答申を受けて29年、社会教育法の改正にまで至っているようです。その流れの中で地域学校協働活動の提唱が叫ばれるようになったということです。それまでも地域が学校を支援したり連携を取りながらというのはもちろん学校はやって参りました。そういう歴史は少なからずあるわけですが、この地域学校協働活動の考え方というのは、それまで地域からの支援は一方向ってというのが主だったのを、連携とか協働とか双方向のやり取りというのが大きく目指しているようです。学校を核とした地域づくりということを目指すようにということも掲げられております。2ページ目をお開きください。地域学校協働活動のイメージ図となります。子どもを取り巻く学校とか家庭とか地域が一体となり、地域全体で未来を担う、子どもたちを支えるという仕組みになっております。地域の高齢者、PTA、各種団体等幅広い団体の参画を

得て、ゆるやかなネットワークという表現もございましたが、そういうものを形成できることを理想としているところです。これまで課題でありました、特定の個人に依存していたコーディネート機能とか、活動が継続できない、持続できないという地域の協働活動の問題が解消できるという利点がございます。子ども側からすると、コミュニケーション能力が向上するとか、地域への関心が深まるとか、そういった実績も聞こえております。3ページをお開きください。すでに全国では様々な取り組みが報告されております。いろいろなパターンがありまして、地域課題解決学習ですとか、放課後子ども教室とか、地域未来塾、家庭教育支援活動、学校に対する多様な協力活動、地域の行事、お祭り、イベントへの参画・・・と。多種多様な取り組み事例がございます。4ページに色々な県の活動事例を載せております。沖縄県名護市の活動事例ですが、地域の恵まれた環境を利用した、総合的な学習の時間の指導体制を地域の支援団体が連携をしてその役割を担っているというものです。それから、山口県の和木町では、放課後子ども教室において、地域の人材が指導者とかサポーターとなって昔遊びとかスポーツ体験をすることかそういうものを行っています。また、民間の企業との連携によって科学実験教室などもここでは行われているようです。9ページ、大分県の佐伯市では、公民館とか文化協会と小学校の合同芸術文化祭を行っているようです。伝統芸能である杖踊り等を伝承する取り組みを行っているようです。6件ほどご紹介しておりますので後ほどまたご覧いただければと思います。

さて、ここまで地域学校協働活動についての経緯とか、全国的取組を説明してまいりましたが、平戸市の実情についても最後の10ページ11ページでご紹介いたします。この会に際しまして、短期間ではありますが各小中学校に現在の学校での取り組み事例の報告を求めて、回答をいただきました。報告事例ですが、地域と協働して取り組んでいる授業とか行事、学校が地域づくりに貢献している事例というものを掲載しております。重なっているものもありますが、その2点について聴き取りをしております。大島地区は、コミュニティスクールとして学校運営協議会なるものが設置されております。地域とともにある学校づくりを行っているという回答をいただいております。昨年度その成果を県の指定を受けて大島中学校が大々的に発表をしております。また、津吉小学校では、まさしく、以前から取り組んでおりまして、地域からの一方向での支援ではなく、学校と連携、双方向の取組を津吉小学校はすでに繰り広げているようです。津吉茶市における「あいあいショップ」の例ってというのは、学校で製作した品物を茶市で販売することか、そのような関わりの中で地域でも学校の参加で行事が盛り上がるといった例もございます。ウィンウィンの関係といったそういうものがすでに展開されております。典型的なよい事例ではないかと思っております。田平南小学校も古くから、緑の少年団とあって、非常に好ましい取り組みがなされております。学校の体験活動とともに、地域への貢献活動の非

常に代表的な事例としてあげられるのではないかと思います。最後に、中野小、中野中、ともに掲載してあるかと思いますが、鄭成功の生誕祭が先日も行われましたけどもそういったものの参加、媽祖行列とかジャンガラへの参加。これも学校と地域の双方向の取組の好事例ではないかと考えます。以上簡単ではございましたが資料の説明をさせていただきました。この協議の参考になりましたら幸いです。

#### ○市長

論点を整理したいと思いますが、先ほどの説明でも、かなり以前から、世代を超えて地域等が学校を支えてきたという事例があるわけですね。なのになぜ平成28年からこういったことを文科省があえて言う必要があったのか。その原動力という問題というのは何だったんでしょうか。

#### ○森理事

今回このテーマをいただきまして、正直我々もその辺から考えてみました。平戸市におきましては、こういった事例というのは古くからやってきておりましたが、あえて言うのであれば、先ほどからキーワードとして述べておりましたが一方向的な取り組み、支援とかに終わっている学校も少なくはなかったのかなど。学校が地域に貢献できるようなものが、全国的にはなかったのかなど。

#### ○市長

例えば、ゆるやかな連携という言葉がありましたけども、そこにはその小学校に殺意を持った者が乱入するという事件もありましたよね。セキュリティ強化しようとかあった中で、ゆるやかな連携というのは、誰でも気楽に入られるということなのか、よく分からない。矛盾しているんですね。

#### ○森理事

おっしゃるように、今の時代、門扉を閉めるですとかそういう必要もあります。その事件があった後は、きちんと名札を受け取るとか来客には記名を求めるとか。それも今も続いています。そういう意味ではキーワードで緩やかなと申し上げましたが、正直矛盾は感じているところです。

#### ○市長

あくまでこれは授業のカリキュラム外のことですよ。カリキュラムがカチツとしているからそこを緩やかにして、たとえば算数の授業はそろばん塾の先生を連れてくるとか、そういうシステムの緩やかさを求めているのか、それとも、学校のカリキュラムはカチツとしたうえで、放課後児童クラブとか土日の話です、のようなことなのか。そこはどうですか。

#### ○森理事

全国的な取り組み事例をみても、そこはカリキュラム外のことであると考えます。

### ○市長

カリキュラムについてなると、そこは、先生たちも大変ですからね、線引きというのも変ですけど、放課後のここに地域の人たちが入ってくださいますという状態を作るっていう意味の緩やかさということでしょうかね。

### ○教育長

カリキュラムの中で、教科の中では入れるのが難しいのは、市長のおっしゃるとおりです。総合的な学習の時間とか生活科の中では、そこにふるさと学習という大きな項目を掲げておれば、その中身の運用はできます。そこは成績がどうとかなないので。

### ○田中委員

私たち、まち協として山田小学校と連携しているんですけども、ふるさと学習としてまち協に依頼してくるケースが増えてきていまして、まち探検とか、歴史の関係、中の島クルーズとかもそうですけど。もしかして学校も意識して地域と絡もうとしてきているのかなという印象を肌で感じます。それはこの地域学校協働活動というものを意識してのことなんでしょうか。

### ○教育長

これは、学校の生活科とか社会科の中で、地域を知ろうという単元があるので、これまでもやってきました。それまでも学校の先生だけで連れて回っていたのではないかと思います。まち協という頼りになる存在があれば、一緒に教えてくださいという甘えていける部分もあるんじゃないかと思うんです。まち協の存在というのは学校も大きく捉えているんじゃないかなと。特別に地域学校協働活動という言葉を意識してというものではないのではと思います。

### ○市長

自然体で地域学校協働活動の理念を実現しているってことでしょうかね。教育長にお尋ねしたいんですが、紐差小にしろ中部中学校にしろ、越南まつりの参加しか書いてないんですが、他にやってないんでしょうか。

### ○教育長

お年寄りの施設もありますし、そういったところへは、各学年で年1回から2回訪問して交流しております。地域のごみ拾い等もやっていますので他にも色々やっていると思うんですけど、目立った活動だけを報告しているのかなと思います。

### ○市長

では、ここに取り組み事例として書かれている項目は、これまでの自然体でやってきた実績であって、今回のこの地域学校協働活動の理念でやりました、というのはないんですか。

### ○森理事

そういう聞き方もしていないんですね。地域学校協働活動の取組事例を教えてください、というような聞き方はしておりません。地域に貢献するような取組みとか学校と地域との関係を表すような取組みを教えてくださいということ聞いております。正直、私も昨年度まで現場にありましたけども、地域学校協働活動という名のもとにやっていたという意識はないんですね。先ほどからおっしゃっていますけども、平戸は、自然に、必然的に地域とつながっているという歴史がありますので、それを継続しているといったことです。

○市長

そうであるならば、資料に対する質問ですけど、文科省があえてこれと呼び掛けた原因というか、この事例の対象となった学校はどうしてこれをやってるんでしょうかね。

○森理事

資料の事例ですけども、表彰があったところの事例を掲載しております。平戸でもやっているような内容なんですよ。それを敢えて出すとそれなりに見えるっているものじゃないかなと。

○市長

なるほど分かりました。学校に子どもを押し付けて、あとは知らないっていう地域が都会にあって、そんなところはここに学びなさいと文科省は誘導しているんですかね。となると、ほとんど平戸では間に合っておりますと。そういう感じなんですか。あえてそれを踏まえたうえで提案といいますか、ふるさと学習を進めるうえで、子どもたちの将来設計というか方向性を見出し方なんですけど、これまで地元就職率を上げるために、高校生と企業がマッチング相談会をやってきました。隣の松浦市に取り組みを聞いたら、中学生段階から企業訪問をさせて、自分の町にこんな会社があるんだ、と入ってみたらカッコいいじゃん、といった感じで、だったらこの高校に行こう、と進学選択時の好事例になったというところがありました。我々も中学時点でそういう取組みをする必要があるんじゃないかなと。そういう取組みをやってるんでしょうかね。

○田中委員

職場体験はしていますよね。3日間くらい、地元の企業に。

○教育長

津吉小学校は、もう小学校段階で職場体験しているんですよ。

○市長

田平なんかたくさん企業ありますけどもね。

○総務部長

お願いしてみないと分からないです。

○氏田委員

きのご屋さんとか受け入れてもらっていますけどね。

○市長

放課後児童クラブの運営も大変ですよ、年齢が6歳くらい離れているとね。課題とか問題点はないですか。

○森理事

総務課からいただいた議題の中であったものですから記載しておりますが、こちらからは特になく、この会議の中でご意見があれば逆に伺いたいと思っております。

○市長

まち協関係者として何かないでしょうか。

○岡委員

健全育成会というのがですね、消化するための育成会になっているような気がしています。本当に子どもと親を触れ合わせるっていう方向に行っていないので、逆に、外に新幹線に乗りに行くとかそういう取り組みになっているんですよ。もっと平戸の歴史を学んだりした方がもっとたくさんの人数、安い金額でできるじゃないかという話をしたことがあります。学校の悪口になるようであまり言いたくないですが、子ども劇場とかまちづくり協議会でするときに、ビラを配って来場者を募集するときに、あまり相手にしてくれないような部分があるんです。それで、そこには協力してもらわずに自分たちで知恵を絞って集めるという形になっていってます。先生たち、お忙しいところもあるんでしょうし、学校教育とは関係ないといえれば関係ないので・・・

○市長

例えば、この前、北九州フェニックスの試合がありましたし、スラムダンクの映画上映なんかもやってましたけど、そういうのは学校ではどんな扱いでやってたんですか。

○森理事

今回学校にも北九州フェニックスは結構チラシなど回ってきていました。

○教育長

スラムダンクのポスターなどは校舎内で見かけたことはないですね。お願いにきてないんじゃないかな。

○岡委員

私のところには、回ってきましたけど。

○市長

営利活動ってことで公的にできなかったんですかね。入場料もどのくらい？

○教育次長

公開中の映画ということで、通常の映画館と同じくらいだったと思います。

○岡委員

ちょっと話題が外れますけど、市長がよく平戸の高校に地元の子どもたちを入れようって色んな活動したりお話していただいたりしていると思うんですけ

ど、先日私、猶興館の同窓会に行ったんですよ。そしたら、地元の人間少ないんですよ。結局、親が母校に対する愛情なかったら子どもに対して学校はどこでもいいじゃないかっていうところがあるのかなと思うんですよ。

#### ○市長

実際、親が「平戸は良い企業ないからよそに行け。」って言うところも大きく作用しますよね。

#### ○岡委員

自治連合では地元の企業、K T Xとか赤木コーセイに見学に行くようにしています。区長さんたちに地元の企業を知ってもらって、地元の親御さんたちに対して「こういう企業が地元にあるよ。」っていうのを宣伝してもらいたいと思っています。学校だけでなく地域でもそういうことをやっていかななくてはなかなかうまくまわっていかないのかなと思います。

#### ○市長

結局、大人への教育も必要ってことですね。子どもを巻き込むときには、親も来いと。一緒に企業見学するぞって言わないとだめですね。例えば子どもがK T X行って、感動して「すごいよ、お父さん。」って言っても、大人が「田平やろ？行くな。」って言ったら終わりですからね。これは親が地元を否定していたらっていう例え話で言っていますけど。

地元での活動について、子どもへの評価というのはどのようにしていますか。

#### ○教育長

学校評議会にしても、運営会議にしても、学校評価というところに学校外の評価者という形で入ってもらって、年2回か3回評価をしてもらっているんですけど、学校外の評価の方が厳しい学校があったりします。4段階で評価して悪かったときはコメントを入れるようにしています。悪かったときは、確かにそうだよなっていう結構厳しい辛辣な意見が入っていたりします。

#### ○市長

参加した子どもたちを個別に評価することはないんですか。野菜づくりで一番大きなじゃがいも作ったとか・・・。地元から喜ばれたとか。

#### ○森理事

それぞれの対応はその場その場でしているとは思いますが、いわゆる評価って言われると・・・。

#### ○氏田委員

例えば、田平の緑の少年団は、総合的な学習の中でもやっていますし、数字的な評価でなくても、見えない部分については外部の講師や教師の言葉かけによるものも評価って言えると思います。○とか×とか、4とか5とか付けるんでなくてもですね。これは外部の講師等のコーディネートの腕の見せ所か

などは思います。すべてを学校ではできないと思いますので、そこそこで評価のやり方があるっていいのではないですか。

#### ○市長

評価のやり方は色々あるとして、せっかくこれだけやっているのですから、発表会で発表して、「こんなこともやっているんだね。」っていう機会はないんですか。

#### ○森理事

一堂に会してっていうのはないですね。小学校は難しいんですけど、中学校は、少し違うかもしれないですけど、この前のふるさとプロジェクトの前段部分で8校集まって少ししているんですよ。代表だけですけど、生徒会交流会という形で。全校的に一堂に会してというのは現実的には難しいですね。学校内では、どの学校でも学習発表会とか文化発表会という形で、総合的な学習の中で行っています。3年生はこういうことやっていますよ、1年生ではこういうことやっていますよ、という風に毎年やっています。

#### ○教育長

ひとつ付け加えていいですか。評価のことですけど、学校で介護施設とかに訪問に行くんですね。しばらくしてから、おばあちゃんからお礼の手紙が届きました。自分は耳が聞こえなかったけどずっと隣にいてくれたっていう感謝の手紙がきて、全校朝会で読んであげましたけど、その子はそれから介護施設に行くのが楽しみになっていました。将来もそういう仕事に就きたいと。そういう地元からの感謝も評価になっていると思います。

#### ○生涯学習課長

事例を紹介させてもらいます。生涯学習課でも公民館講座で様々なことをしておりますが、一つの例としまして、田平の公民館と協議会が連携して、田平の民俗芸能の荻田浮立の体験授業をここ数年行っております。そもそも、荻田浮立は東荻田地区の伝統芸能ですけど、地区に子どもがいない。どうしようかということで、学校の協力で町内全部に呼び掛けてもらって、講座を受講してもらって、今年10月にお祭りがあるんですけど、講座を受講した4名の子どもが実際にお祭りに参加することになっていまして、後継者育成にも役立っております。

#### ○田中委員

放課後児童教室、学童の件で、学校にあるのは平戸小と生月小ってことですけど、平戸小学校は他の学校の児童を受け入れしていますか。生月小学校内にあるので、山田小学校の児童は断られているんですよ。山田小学校の子の親御さんたちは困っているんですね。生月を出られた方が数名いらっしゃいます。放課後見てくれるところがないから。送迎の問題とかはあるんだけど、根本的なところで、他の学校の児童を受け入れられるのかどうかお聞きしたいと思ったんですが・・・。ここの管轄じゃないんですかね。

## ○教育長

福祉課になりますかね。私が知っている範囲で、間違っていたらすみません。山田小学校区にそういう施設がないんだったら受け入れ可能なんだと思います。今度、田助小学校の学童がなくなるんですよ。それで、平戸小学校の方に、という声が聞こえたので。山田小学校には児童館がありますよね。

## ○田中委員

山田の児童館は子どもを預かるだけだったり時間制限があって、親御さんは学童を希望しているんです。ただ、山田小の子どもの数は学童を作るまでもないという少人数なので。

## ○教育総務課長

北小学校の学童には、他のところから来ていると思いますけどね。外部がダメってということではなくて運営団体の都合とかでしょうかね。

## ○市長

時間もありますので、その辺の問題はまた、別の時にしましょうか。今日は地域学校協働活動についてでしたので。

本日のまとめですけど、文科省とか国としては、学校と地域の連携を促したい、協働活動をやってくれという号令をかけていますが、一方、地元の現場は、もうやっていますよと。今更何言っているのってことなんでしょうけど、もう一度、そこに磨きをかけて、全国に誇れるようなものに進めて行こうという号令をかけてやっていただきたい、ということになりますかね。それをやったうえで、各関係者の反応をみて、「そんなこともうやっていますよ。」っていうところもあるでしょうし、「そういうことなら、路線変更しよう。」という意見も出てくるかもしれません。まち協も小学校単位でできていますから、色々気づきがあるかもしれません。まち協は総務部所管ですし、学校は教育委員会ということですから、連携してやっていきましょう。

以上で本日の会議を終了します。本日はお疲れ様でした。